

にしっこ 西っ子のみなさんへ 73

2月2日

今日、2月2日は「節分」です。そして、明日2月3日は「立春」です。まだまだ寒いですが、暦の上では明日から「春」です。

「あれ？ 節分は2月3日じゃないの？」という人もいるかもしれませんね。鋭いです。実は1985年から2020年は、2月3日が「節分」で、2月4日が「立春」でした。

日本には春夏秋冬の四季がありますね。そこで1年を4等分して、それぞれの始まり(の日)を「立春」「立夏」「立秋」「立冬」としています。どこで区切るかは、太陽と地球の位置関係から決められますので、日が変わることがあります。

そして、季節の終わりの日を「節分」といいます。従って、「節分」という日は、1年に4回あるのですが、現在では、立春の前日の節分(冬の最後の日)だけが、「節分」として残っているのです。

日本には、「二十四節季」というのがあって、「立春」もその1つです。二十四節季では「立春」が新しい年が始まる日とされています。立春から順に、雨水・啓蟄・春分・清明・穀雨・立夏・小満・芒種・夏至・小暑・大暑・立秋・処暑・白露・秋分・寒露・霜降・立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒と続きます。ほぼ15日毎にやってきます。

節分に豆まきをしますが、これはなぜでしょうか？

節分に豆をまく風習は、中国から伝わってきました。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じやすいと考えられていました。昔、病気が鬼が運んでくると考えられていたので、その鬼を追い払うための儀式として行われました。



「福は内、鬼は外」と叫びながら豆をまき、厄を払い、新しい年が良き年となるようにと願ったのでしょうね。

近年、「節分」には、恵方(神様がいらっしゃる方角)を向いて、黙って、一気に太巻きを食べるとというのが流行りですが、私が子どもの頃、このような風習はありませんでした。調べてみると、江戸時代から明治時代にかけて、大阪の花街で「節分」をお祝いしたり、商売繁盛を祈ったりした時に、七福神にあやかって7種類の具が入った太巻きを食べたのが始まりのようです。

以前、海苔屋さんが海苔の需要を増やすために広げたという話を聞いたような記憶があったので調べてみると、日本で洋食化が進み、海苔の消費量の減少。大阪の海苔問屋が作る組合が、海苔の販売促進を目指して節分に太巻きを食べるキャンペーンを展開したことで、昔の風習が復活したと書かれていました。私の記憶は正しかったようです。

ただ、売れ残った「恵方巻き」の大量廃棄という新たな問題が生まれ、最近では注文販売となっているところが多いみたいです。

今日の夕食が「恵方巻き」だったら、正しく食べてご利益を得てくださいね。

